

新県立中央図書館整備事業設計業務委託に係る公募型プロポーザル  
(2次審査) 第3回審査委員会 議事録

日 時：令和4年2月19日(土) 10:30~20:00 (審査は16:40~)

場 所：グランシップ910会議室

委 員：建 築：長谷川委員長、北山副委員長(欠席)、貝島委員、千葉委員  
：図書館等：古瀬委員、岡本委員(欠席)、是住委員、難波委員

事務局：社会教育課新図書館整備室

事業アドバイザー：小野田教授

発注支援事業者：明豊ファシリティワークス(株)

## 《要旨》

### ■審査開始 【事務局】

- ・北山副委員長、岡本委員が欠席。
- ・最も優れた技術提案書及び次順位の技術提案書を決定していただく。

### ■全体議論

- ・他のコンペやプロポーザルにおける審査では大体1つ2つこれがというものがみえるのだが、6提案とも同じぐらいのレベルに見え、審査は難しいと思う。
- ・コモンズという考えが見直されているように、地域性は大事になると思う。付帯質疑で静岡らしさを問いたが、答えて貰えていないという感じがした。もっと積極的な静岡らしい提案を静岡の人は期待していると思う。コストを掛けずに工夫して、県産木材を使った提案もできたかもしれない。積極的に県産木材を使う事を期待していたが、木構造を使うとコストが上がってしまうから、提案できなかったと思う。ランドスケープを充実させて欲しいという要望を付帯質疑として出したことで良くなっていると思う。だからといって、一番を選ぶのは難しい作業と感じる。
- ・公共建築は、国の計画をベースに県も木を使うプランを策定しており、内装に木を使う目標量を定めている。どの提案もその事について提案されておらず、木材利用の施策についても理解されていない印象があり、意匠として使うぐらいの感じで考えていると思う。全提案を通して、特定するのが難しい印象。
- ・各フロアの構成がよく考えられている提案がいくつかあったが、12番の提案は図書館運営をもっと知っていただかないと、働く職員は大変だと思う。22番の提案はランドスケープを市民と協働する提案もあり、新しい図書館のコンセプトとして良いと

思うし、一緒に作り上げていく姿勢も感じられて良いと思う。10 番の提案は、各フロアは使いやすいような構成となっているが、新しいタイプの図書館機能部分について創発を生むような工夫があまり感じられ無かったのが少し残念だった。

・静岡県民は植物が好き。他の事例でも、植栽作業をみんなで協働する例があった。設計中に働きかけて、そういう人達を作っていく事もやっていければ良いと思う。

→新しい図書館エリアについても、当初は民間事業者が様々なイベントを立ち上げていくと思うが、将来的な理想は、自発的に地域の人達又はNPO 団体等が運営していく事だと思う。その様に繋がっていく気もして、植栽が市民協働になるのは、スタートとしては良いと思う。

・どの提案が良いか決められない。上下移動の事を考えると、閲覧室があちこちの階に散らばっているのはユニバーサル対応が難しいと思う。比較的バランス良く閲覧室が配置されている提案がいくつかあった。22 番で、障害のある職員をスタッフとして考えられていたのは、他の提案には無かった。閲覧室が色々な階に散らばっているのは、やはり、利用者にとって不便だと思う。ユニバーサルデザインの視点では、極端に悪い提案は無かったが、エレベーターと階段が離れているとか、エレベーターを使うには、裏に回って下さいというレイアウトは、様々な利用者を想定した場合、不便になる。

→一般的に、エレベーターと階段はセットで計画されると思うが、エレベーターしかない提案もあった。最近の新しい建築はユニバーサルデザインに対して良く検討されていると思うが、よく見れば足りないところがあるかもしれない。

・ランドスケープについて付帯質疑を出した事は良かったと思う。どこをオモテとして捉えているのかが重要と考えるが、駐車場側、駅側、グランシップ側、並木通り側なのか。情報量も少ない中で苦労して提案している印象を受けたが、どの様に人を流すのか、人をどの様に受け止めるのかは、大事だと思う。今回、屋外のテラスや広場が図書館とどの様に結びつくのか、どちら側をオモテとして選ぶのかという点が多少気になった。また、施設全体のボリューム感で全体のバランスを考えると、どの様に配置するのかは決まってくる。裾野が広く、上はどうしても高くなるボリュームに対し、裾野を綺麗に計画できている方が、空間的に気持ち良くなると思う。例えば 12 番の提案のように、人を受け止めて、なるべく浅い建物で人を様々な方向に展開させるのはとても良いと感じる。大型施設となるので、周りを廻らなければいけない厄介さを、どう解決するかという意味では、1つの方法だと思う。

→1階の搬入口も大事だが、周辺に対し、閉じる様な形態にしなくてもよいと思う。静岡は車で来る方が多いので、駐車場側からのアプローチも検討する事が大切で、12

番の提案のように四方に開かれた形態で、パーキングから見た風景も良い。しかし、1階の閉じている書庫空間は大きな問題だと思う。

- ・どれが1番良いというのは、今の時点では全く無い。ランドスケープの投げかけはとも意味があると思ったが、その答えが必ずしも植栽でもないと思う。植栽やテラスは大事な1つの要素ではあるが、本を読む行為が屋外まで広がっていく形態は、図書館としてあったら良い姿だと思う。一方で、管理する側からすると相当な覚悟で臨まなければならない事なので、運営や管理の方法、仕組みなども含めて、何か確信が持てる案だと良いのかなと思う。それから、今回の建物はウラを作れない立地で、どの方向からも見る事ができ、どの方向からもアプローチできるため、とても難しいと思う。したがって、外周部をなるべく開放的にする案が多かったが、一方で、施設が大きいので、その足元を歩くのは辛いと思う。施設の足元を歩く事が本当に楽しいと思える建物になるのかも大事な事だと思う。その視点で見ると、1階に活動の場のある1番や7番の提案の作り方は、1室1室の見え方が、店舗が並ぶように見えるので、外壁を単にガラスにする以上の魅力を発揮する可能性があると思う。また、建物のボリューム感があるため、建物の持っている施設感に大きく影響されると思う。12番の提案のように下層階をくびれさせるのは、それだけで効果的に思うし、中でも7番の提案の様に閲覧室をワンフロアにするのは非常に新鮮だった。豊かな活動の場を作ろうとしている案が多かった中で、空間の気積だけで、一体感であったり、象徴性であったりなど、本と出合う場の雰囲気を作ろうとしているのは、アクティビティ優先ではない別のアプローチで新鮮に思えた。最後に、素材に対して正面からアプローチした案が少なかったと思うが、素材は人が共感する上で、かなり重要な要素だと思うので、12番の提案のような素材に着目してアプローチしたのは大変新鮮であった。どの案が良いとかは無いが、その辺りに注目しつつ議論したいと思う。

## ■各案についての議論

- ・発表順で議論を行う。

### 【021】

- ・1次提案はすごい大きい建築に見えた。アドバイザーがプレゼンテーションに参加していたが、今後プロジェクトにずっと関わってくださるかわからない。
- アドバイザーは県立図書館の元館長で、技術提案書にあるような「新しい図書館」空間を、全国の都道府県立図書館の中で先駆けて設置することにチャレンジされた方。今は退職されていて、地域を拠点にお仕事をしている。

- ・1次の時は大きいと感じたが、少し小さく見える。他の提案より大きいという事はな  
いか？

→m<sup>2</sup>数は大体、どの提案も同じ。

- ・他の提案は駅側の敷地を広場にしているが、この提案はL字型のプランとしているた  
め、平面的により広がっている。

- ・図書館アドバイザーがチームに入っていることで、何か建築的特徴が読み取れるか。

→図書館アドバイザーの方は、知識をどのように捉えてこれらの図書館を考えていくの  
か、といった哲学的なお話をされることが多い方。静岡県の基本構想などを踏まえて、  
うまく表現されていると思う。

→図書館アドバイザーの思想が提案内容に反映できてるかが読み解けない。

- ・通常のカテゴリごとに本がまとまっている事と「小さなライブラリー」でまとまっている  
事の違いが分からなかった。全体としては凄く良くできた案だが、「小さなライブラ  
リー」が書架のまとまりだとすると、平面が大きいと、似た様な空間が続く印象が  
ある。また1階と2階が完全に分かれている印象があり、もう少し上下階の繋がりが  
ある空間にしてもよいと感じた。

→駅とペDESTリアンデッキが接続されている2階から、その下にある活動の場所へ、  
もう少し行きやすい計画としたい。図書館機能と活動の場所を混乱させないように分  
けているが、それが良いことなのかは疑問に思う。

→M2階に事務機能があり、2階が駅デッキとつながっている。真ん中に事務機能が入  
る事で、図書館機能が上下に分かれている印象がある。

- ・構造は合理的だが、外観が普通のビルの様で、魅力が感じられない。1階の免震層ま  
での架構は合理性があるものの、1階がインフラのような空間として扱われているの  
が気になる。

- ・大型ショッピングモールのような外観に感じる。20年、30年と使い続けなければなら  
ないが、これからの建築の形態がこれでよいのかが疑問。

- ・RC造は将来の可変対応が難しいのではないかと。

- ・アーカイブとしている中心コアもラーメンストラクチャーなので、空間的には外周部  
の構造形態と違いがない。提案の基本コンセプトと、構造形式と空間の作り方がうま  
く連動していないように感じる。

- ・参加者の中で、RC造としているはこの案だけ。RC造は構造計算上、穴をあけたり、増築したりするのが難しい。なぜRC造としたのか知りたかった。割と低層なので、施設全体が大きく見える。
- ・駐車場を活用する提案はこの案だけだが、将来整備で支障にならないか疑問。  
→アイテムとして提案しているが、有機的な提案として思考されているか、質疑応答で確認することができなかった。ロータリー、光庭、ゲートゾーン、駐車場は本来、連帯感が生まれる場所だが、それぞれが別空間の印象で、使い方の提案が明快ではなかったため、提案内容が詰め切れていない印象を持った。
- ・静岡の関係事務所も入っており、新しい静岡らしさの建築としてプレゼンしていたが静岡らしさをどこに感じとるのか難しかった。静岡らしさは、小さなコトが重なり合うことなのか、PORTの考えを引き継ぎ、小さなコトを受け入れ、育て、発信することなのか、何をもって静岡らしさなのかが分からなかった。
- ・図書館の専門家でないが、1階が市民、2階が世界に行く、3階が静岡となっており、それぞれのプログラムが分断されているように感じた。
- ・中のコアと1階の四角い箱との取り合いが、気持ち良さそうに見えない印象を受ける。また外部空間との連続性や使い方などが、まだ詰められてない印象。
- ・1階の奥行の深さから、オープンコラボレーションスペースは十分な明るさを確保できるのかが心配になる。

## 【001】

- ・耐震性のあるアーカイブコアとアクティブプレートが耐震的に続くと思えない。床がアーカイブコアと続くと説明を受けたが、納得できる説明ではなかった。細い柱が3層分2層分1層分といくつもあるが、この同一細さで耐えられるか疑問に思う。  
→真ん中のコアに対して張り出しが大きすぎるので、相当柱が振られると思う。そのため、耐震性能を確保する部材が何らか入ってくると思う。
- アクティブプレートとの接続が悪い。コアとアクティブプレートのスラブが連続したとしても200φの柱で受けることが地震に耐えうるのか疑問を感じる。
- アーカイブコアとサブフレームは揺れが異なるため、綺麗に揺れないと思う。
- 質疑では、アーカイブコアの耐震性をサブフレームに伝えると説明があったが、床が繋がっているだけでは納得できなかった。

→細いフレームが、この提案の特徴になっているが、このフレームではもたないと思う。  
張り出しているフロアを厚くしないといけないし、柱も太くしないといけないと思う  
が、そうすると建築としての魅力は無くなると思う。

→提案書のパースでは、真ん中のコアも結構床が抜けている。本来繋がらなくてはなら  
ない。プロポーザルの段階だと、あまり指摘するのは可哀そうかなと思う。

- ・図書館としての機能は充実しており、様々なテーマを掲げているが明解なコンセプト  
が感じられない。

→地域と一緒にプログラムを作って、アクティブプレートを活かす仕組みを作りま  
すとコメントされていたが、これは設計の過程で行う事なので現時点では計りきれな  
い。

→これからの新しい活動を引き受けていくフロアプラットフォームであるため、期待は  
できる。新しい図書館としての機能を導入していくことに対して、一番期待できると  
ころ。ただし積極的な活動をしないと新しいアクティブプレートができないと思う。

- ・広場はあるものの、駐車場周りを植栽で囲むだけでランドスケープとしてデザインが  
まとまるか疑問に思う。

- ・この提案はアクティブプレートがメインとなるが、新しい建築になる活動が展開でき  
るかどうか。設計者が積極的に図書館運営に関われば、面白い新しい空間が付け加え  
られ、街の人たちとコラボレーションしながら作っていけば、面白い建築になること  
が期待できると思う。

→円環構造のように、中心の一番閉じるところが開いていくことが売りだが、図書館と  
してのプログラムを実現できるのか。そこを未知数のまま提案しているので、分かり  
づらい。

→中心に堅い場所があり、外周部がアクティブとなっている。多目的ラボ、メディアラ  
ボなどが、アクティブなコアになりそうな場所だが、プランニング上シャッフルされ  
ているため、コンセプトと実際のプランが連動していない。その事が良いという考え  
もあるが、具体的な活動がイメージできていない印象を受ける。

## 【007】

- ・外壁のデザインが技術的に弱く、矩計図にはリアリティがない。四角い雲、自由な社  
会。自然と情報の共鳴。太陽のリズムや気象などを取り上げ、大空間を作る意味を述  
べているがコンセプトは評価したい。

→大空間の必然性が感じられない。クラウドを表現するために大空間にしており、外観  
としての意味は無いと思う。グランシップもホールとしては大空間だが、あの時代の

価値観の表現として、あのようにつくったのであり、意味が無かった訳ではない。今の時代、機能的に必要な無い大空間を、わざわざつくることに疑問を感じる。

→吹き抜けとした空間は気持ち良い空間だが、グランシップの他に、もう1つのカテドラルのような大空間を作ることになる。温暖な静岡県でこの大空間が必要な理由が見出しにくい。

→大空間のコンセプトとして、天文学的な言葉を引用し、図書館を大きな世界として本や空間で示しているが、多くの人々に伝わる空間になるのか。伝わることでこの建物は評価される。

→ガラス張りの提案が多い中で、本のことを考えて、そこからどのような公共性を考えられるのか、どういう開放感を考えられるのかについて、よく検討された提案だと思う。空間的にも非常に魅力的なので、間違いなく来館者が多くなりそうだと思うが、その辺りの説得力がどこまでこのプロジェクトの長い年月の間に維持できるのか、外壁のステンレスメッシュの清掃性や足場の必要性は無いのか、という点について、やはり不安はある。しかし、ガラス張りの提案が多い中で、可能性の一つとして、新しい試みにチャレンジしてることは評価できる。

→屋外での広場を提案している提案が多い中、インテリアの広場を計画している。大きい気積のため、空調範囲を限定するなどの対策は技術的に解決できるものの、インテリアの広場が必要か。

→コンセプトと大空間の積極性を評価するか。深い森や太陽のリズムというキーワードなどが、この場のコンセプトは感じとれるものになるか。

→図書館としての使い勝手は良いと思う。ただし貴重書展示コーナーが5階と8階に、地域資料スペースが4階と5階に分かれていて、ちょっと管理が大変になりそうかなと思う。

・建物高さが約35m、天井高さは約25m程度と思われるが、本当にこの箱が魅力的かどうかだ。

・一般閲覧室が2フロアでコンパクトに収まっていることは良いが、このボリュームが気になっていて、県内で巨大なアトリウムをもった建物がそんなに古くないのに取り壊された事例があるが、二の舞にならないかという心配がある。

・他県の事例で、金属が使われている外壁にサビが発生してきており、その様になってしまうのが心配である。

→ステンレスの防錆性能が弱くなっている印象を受ける。

→ステンレスは、車から排出される鉄粉などからのもらい錆に弱い。

- ・この大空間を作る思考を評価するかどうか、一番大きい要素だと思う。

### 【010】

- ・2次提案で、パンチングメタルの周りを植栽とした計画としている。金属の周りに植栽をすれば、新しい建築になるのか。緑のネットワーク、公園のような場所と書いてある。

- ・ナレッジボイド、ナレッジガーデンが一番の特徴であり、その空間が図書館における活動と上手く連動して新しい場になるというところが一番推しなのだが、そこが一番弱いような気もした。シンボリックな吹き抜けとしてあるだけのような感じで、吹き抜けを介してインタラクティブな関係が生まれにくいのではと思う。本を読むという行為と活動する行為が具体的にイメージできていない印象を受ける。

→ナレッジボイド、ナレッジガーデンから、ナレッジが引き出されている事が伝わってこない。

→ラボが並列して配置してある印象で、そこを使う人同士のつながりが感じられず、貸し部屋のように感じてしまう。

- ・駅からの道が建物中央部で中に入って来るが、そこからの人の流し方がこれでよいか疑問がある。並木通りに開かれているわけでもなく、直行方向の森のナレッジガーデンにも向かっているので、建物の向きとその仕込みのやり方が分からない。この建物は一体どちらを向いているのかという印象になるのではないか。

- ・閉架書庫をどこに配置するかによって、外観に影響を与える。パンチングメタルでパッケージにするためだけで、ダブルスキンとする理由が分からない。ハードな建築は、この敷地に合わなくないか。

- ・静岡の水と光と風を感じる「知のターミナル」とあるが、言葉の意味が分からない。また、ナレッジボイドとナレッジガーデンの関係性についての説明も、言葉が踊っていて、説明になっていないところがあり、理解できなかった。

→言葉に力がないと思う。

→公共施設なので対外的な説明を考えると、言葉がしっかり使えているかという設計者の力量は重要だと思う。

- ・合理的な建築計画としてエンジニアリングの答えは提案されているが、グランドデザインが今ひとつ見えてこない。キーワードが踊っているだけで、中身が無い印象を受ける。



## 【022】

・トップ部分を雲のように見せるため、半透明のものを立ち上げて、一般ビルディングに見えるイメージを消していると思うが、説明がよく理解できなかった。

→プレゼンテーションの説明では書庫を守ると言っていた。プランを見ると書庫の周囲に新聞コーナーなどのバッファゾーンがあるので、そこまでする必要はあるかは疑問に思う。

→5階から屋上部分まで立ち並んでいるように思う。

→立ち上がるボリュームを隠したかったのだと思う。

・県産材の活用でCLT耐力壁を県産材で作る提案をしている。

→静岡県らしさを表現するためとCO<sub>2</sub>削減のため、県産材天竜杉を構造材で使い、CLT耐震壁を採用したいと記載しているが、多分鉄骨造で構造計算をしていると思う。1次提案からさらにこうした情報が盛り込まれている。図書館機能としてよく考えられており、外読書スペースとしウッドテラスをデザインしなおしているが穏やかな気候の静岡だから可能なことだ。

・ラボやセミナールームが中央部の廊下と屋外テラスに連続しており、使いやすく、賑わいのある空間になっていると思う。その上階は、駅からのエントランスを境として、図書のコーナーと静かなテラスになっているため、利用者の視点からも比較的に分かりやすい空間構成となっている。

→1、2階をコンパクトにまとめている。ホワイエ、ロビー空間が無駄に広くなく、ラボなども配置している。多くの提案者が1階は広場的にオープンスペースを広く作っているが、この案は無駄の無い計画をしている。

→機能的によく考えられた提案だと思う。

→「新しい図書館」をどうイメージするのか、オープンスペースでなんでも使えるようにするのか、もしくはコーナーがはっきりしていて、いろんな人が並走していろいろな形、時間で使えるように計画するのか、といった有機的な使い方について、学校建築を手がけてきた設計者の経験がうまく入っており、学びの場として提案されている。

→1階が広場的に自由な活動が展開できるのも良いと思う。2階はセミナールームなど、学生がラボを開いたりするので、学校的スタイルだと思うが、1階は多くの人達が来るので、多目的に使い、イベントができる程度の広さはあったほうが良い。コンパクトになりすぎている印象があるが、他の提案者とは異なる提案である。図書館としての機能は充分考えているが。

→よく考えられた提案となっている。7階の地域資料コーナーも、貴重書庫が真ん中にあり、貴重書展示コーナーや県史編さん収集資料閲覧コーナーが静かで落ち着いている。

→広いテラスをどの様にしてうまく使うかが課題だと思う。

→運営側とよく調整する必要があると思う。

## 【012】

・県内で作られた材料を用いたファサードがハードな施設になっていて、1次提案とイメージが違う。今の県立図書館を訪問した時に、閉架書庫が広く、分類整理などがとても大変だと聞いていたため、平面的に大きい閉架書庫でいいのかヒアリングしたが、良いものなのか。

→広いワンフロアの書庫で運営している図書館もあり、上下移動をしないほうが良いという考えもある。フロアが分かれていると、分類毎に収蔵するので、丁度良い冊数で収まるかが難しい。ワンフロアだと分類毎の冊数を考えずに使えると思う。

→書庫をワンフロアとする事は一つの考えとしてあると思うが、書庫が1階にあることでの不安を解消しようとする、どんなことが考えられるか、少しでも見通しが立つとよいと思う。

→上に行くほど、小さいスペースになっていき、そこを閲覧室にしているため、容易に書庫を上階に計画するように変更できるのかは疑問に思う。

→1階に書庫があるのは湿度の問題などで良くないと思う。

→他の図書館でも大型のフロアで計画している。閉架書庫は専門的な分類がされている場所なので、素人が入る場所ではないため、どの様な計画であっても迷う事は無いと思う。エレベーターを利用した閉架書架が良いのか、平面の広い閉架書架が良いのか、そのバランスだと思う。

→閉架書庫と公開書庫が交互になっている提案は、使い勝手に懸念がある。また、図書館運営では閲覧室から書庫に行き来する事が多いため、スムーズに行き来ができる必要があるが、そこが考慮されていないと思う。

・1階周りがくびれていて、広く、床の重なり合いが特徴的である。1階が抜けていて、駅と街を繋げている。また、ファサードのたくさんの素材については特徴的な使い方が新鮮で評価できる。

→素材から建物を表現する事は建物に対するイメージの持ち方や人々の共感の仕方などに通じていると考えられる。全体が単一の素材ではなく、混じり合っているのは魅力的であり、評価できるが、それぞれの素材の耐久性などの検証により、様々な要因で、設計時に変わる可能性も大いにあるので、このイメージがどこまで残るのが気になるところ。

→1次提案では柔らかい印象の建築だと思っていたが、ハードな建築物にも見える。

・個性的だが、時が過ぎると魅力が失われそうな感じがする。

→オブジェクティブな提案に近い印象がある。地形を作るというテーマの他の提案者たちよりは、積極的に形態を作っている。素材の耐久性は設計時に考える必要はあるが、色々な材料で外観を作るという積極性は面白く、評価したい。

→半外部空間、手摺で囲まれたテラスが良い空間になり得るのが気になる。機能すれば、天気がいい日は快適な閲覧空間になる。壁やスクリーンで守られた外部空間は面白く、様々な屋外の閲覧室を提案することは評価できる。建物高さが高い理由の1つに、駅側エントランスと街側エントランスという外部空間を作ることで、結果的に高く積まざるを得なくなったのではないかと思う。周辺への親和性や大きいボリュームではなく、様々な居場所があることは、施設が持つ効果が色々と期待できる。例えば、グランシップは周りを回らないといけませんが、この案は通り抜けがあり、駅から乳母車でそのままスロープで降りるようなことができる。その空間が24時間開放されている空間の場合、公開性という観点でユニークだと思う。

・これまでの図書館は透明な外観でつくられることが少なかったが、1次提案はガラス張りが多かった。最近の図書館がガラス張りした外観が多い理由として、本を読むというよりも、活動する場所になろうとしていることが強いのではないか。今までの図書館建築は、本を読む空間であるため、壁をめぐらし落ち着いた空間を作り、静かな場を作っていた。ガラス張りということは、多くの人がやってきて、本を読むだけではなくて活動をする場所として考えた方が良く考えているのではないかと思う。

→最近ではガラスに向かって、ラグジュアリーな椅子を置いて、景色を見ながら本を読んだり、ハイカウンターでお仕事をしたりする方も多い。

## ■最終議論

- ・各委員による議論を経て、各項目の採点が行われた結果、最も優れた技術提案書を提出した者は22番となり、次順位の技術提案書を提出した者は12番となった。

《採点結果》

参加者番号	021番	001番	007番	010番	022番	012番
実施方針書	20	15	15	15	20	15
評価テーマ1	8	8	8	8	8	8
提案テーマ2	8	12	12	8	12	12
提案テーマ3	8	8	8	12	12	12
提案テーマ4	8	8	8	8	8	8
提案テーマ5	8	8	8	8	8	8
<b>合計</b>	<b>60点</b>	<b>59点</b>	<b>59点</b>	<b>59点</b>	<b>68点</b>	<b>63点</b>